



重要文化財に指定されている

ひろさきこうせいがくいん きねんかん

弘前厚生学院記念館は

保存修理を行っています

工事着手前写真



(重要文化財指定名称)

重要文化財 旧弘前偕行社 南面

工事着手前写真

かいこうしゃほんかん

明治30年に弘前に設置された陸軍第八師団の偕行社本館として、明治40年に建てられた弘前厚生学院記念館（重要文化財指定名称 旧弘前偕行社）は、現在地に建築されて110有余年、始めの38年間は偕行社本館として皇太子宿泊所や将校たちの集会施設などに使われましたが、終戦から今日までの72年間は弘前厚生学院やみどり保育園の教育施設として大切に使われてきました。

その時々模様替えを施し、偕行社から弘前厚生学院へ土地と建物が移譲されたことで、終戦後の社会の情勢にうまく対応しながら今日まで敷地全体の様子や建物も建築当初の姿をほとんど損なうことなく保存されてきました。

学院では小修理を繰り返しながら大切に使い続け、昭和55年には全面的な屋根は、葺き替え工事なども行い、その後は記念館として自主公開に取り組んでいたところ、平成13年に、日本の近代化の流れの中、文化施設として意匠的に優秀で歴史的価値も高い建物、として重要文化財建造物の指定を受けました。

最近になって、大きな台風や地震、豪雪などもあり建物の老朽化が著しく進んでいたことから、さらなる100年を見据えて、平成25年11月から、国、県、市からの補助金を得て大規模な保存修理を行っています。

記念館の完成は平成31年12月を予定しており、この工事と並行して、冷暖房設備の設置や管理棟を建設するなどして、校舎としてだけでなく、より多くの皆様に活用いただけるように計画し工事が進められています。さらに、明治41年に時の皇太子によって遑止園と命名された由緒を持つ庭園も整備を検討中で、すべてが完成すれば偕行社の当時の様子が再現される、国内でも有数の施設となることが期待されています。

今回の修理は、建物の屋根や壁・床を解体して骨組を出し、傷んだ箇所を取り替えてゆく大工事ですが、いつ発生するかも知れない大きな地震にも備え、補強を施します。また、様々な調査にもとづく正確な復原と、確かな施工技術、そして、建物を取り巻く歴史や環境、さらには今日的な社会のニーズなど、多くの視点で重要文化財の建物のあり方を見直していることが特徴です。

御見学にお越しいただいた皆様には、ご不便をお掛けし申し訳ございません。

編集・製作 公益財団法人文化財建造物保存技術協会 重要文化財旧弘前偕行社設計監理事務所  
発行 学校法人弘前厚生学院 弘前厚生学院記念館